別添様式３

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名　医療法人啓和会　啓和会メディカルカレッジ
研修事業の名称　　啓和会ﾒﾃﾞｶﾙｶﾚｯｼﾞ　介護職員養成研修

１　職務の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスと理解	2 時間	《講義内容》 ・法律における「介護」の定義を正しく理解・把握する。 ・介護保険制度により提供される各種サービスの概要を理解し、体系的に把握する。 ・介護保険サービスと介護保険外サービスがあることの理解をする。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	《講義内容》 ・多様な介護現場における具体的な仕事内容、実際のサービスの現場の具体的なイメージの把握。 ・テキスト記載の事例を活用し、ケアプランの位置づけ・機能を理解し、実際のサービスの提供につながる業務の流れを理解する。 《演習の内容》 ・各種介護サービスの連携、介護サービスの意義についてグループディスカッションを行い介護職の仕事の内容や働く現場を理解する。
合計	6	

２　介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	《講義内容》 ・人権と尊厳の保持 （個人としての尊厳・アドボカシー・エンパワメント・「役割」の実感・尊厳のある暮らしとは・プライバシーの保護） ・ICF　（介護分野における ICF の理解） ・QOL　（QOL の考え方・生活の質） ・ノーマライゼーション　（ノーマライゼーションの考え方） ・虐待防止・身体拘束の禁止 （身体拘束の禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援） ・個人の権利を守る制度の概要 （個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業） 《演習の内容》 「サービス利用者の尊厳」についてグループディスカッションを行い理解する。
②自立に向けた介護	4 時間	《講義内容》 ・自立・自律支援について考え、残存能力の活用、自己選択・自己決定、個別的理解・支援等の意義を学ぶ。 ・動機と意欲、意欲を高める支援 ・重度化防止 ・介護予防、介護予防事業について 《演習の内容》 ・自立とは何か、自立支援とはどうあるべきかをグループディスカッションを行い理解をふかめる。
合計	9	

３　介護の基本（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2 時間	《講義内容》 ・介護職に求められる専門性 ・介護環境の特徴の理解、（訪問介護と施設サービスの違い等） ・根拠のある介護 ・利用者主体の支援 ・医療と介護の連携を基本にした地域包括ケアシステムの実際について、日常生活圏域の重要性について学ぶ。 ・連携や情報共有に基づくチームケアの重要性を学ぶ。 ・様々な専門性を持つスタッフによる複合的なサービスを適切に利用者に提供できる多職種によるチームケアについての理解を深める。 ・福祉専門職、保健・医療専門職の役割を理解する。 ・講師の体験に基づくチームケアの事例研究。
②介護従事者の倫理	1 時間	《講義内容》 ・介護の倫理 ・介護職の職業倫理の重要性 ・介護職としての社会的責任について。 ・専門職の倫理・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ・プライバシーの保護、尊重
③介護職における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	《講義内容》 ・介護における安全の確保 （事故に結びつく要因の対応、技術・リスクとハザードについて） ・事故予防、安全対策 （リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告、ヒヤリハット報告書、事故報告書の活用事例、家族への報告、市町村への報告等）情報の共有 ・感染症の原因と経路 （感染源の排除、感染経路の遮断、感染にたいする正しい知識、予防ついて）
④介護職の安全	1 時間	《講義内容》 ・介護職の心身の健康管理の意義 ・介護職の健康が介護の質に影響する ・ストレスマネジメント ・腰痛予防対策について ・感染症予防対策について ・手洗い・うがいの励行 ・衛生管理 《演習の内容》 ・正しい手洗いの方法を実践する。
合計	6	

４　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	《講義内容》 ・介護保険制度創設の背景と目的、及び動向を俯瞰的に理解する。（介護財源負担増加、今後の動向・見通し、制度改正の流れ等） ・平成 30 年改正の概要を学ぶ。 ・制度全体のしくみを学ぶ。 ・要介護認定に関する知識を習得し、サービス開始までの流れを理解する。 ・ケアマネジメントの概念を正しく理解する。 ・介護報酬、及びそのしくみを理解する。 ・財源構成の概要、制度運営にかかる行政組織等。
②医療との連携と リハビリテーション	4 時間	《講義内容》 ・医療と介護の連携について理解する。 ・介護業務、医行為について理解する。 ・介護職としての業務の取り組み方について理解する。 ・訪問看護について理解する。 ・施設における看護と介護の役割・連携について理解する。 ・理学療法士にリハビリテーションの意義、目的、リハスタッフの役割、介護職とＰＴ・ＯＴとの連携、リハビリテーションの理念についての話を聞き、理解を深める ・訪問リハビリテーションと訪問介護の連携 《演習の内容》 医療と介護の連携についてグループディスカッションを行理解を深める。
③障害福祉制度およびその他制度	2 時間	《講義内容》 ・障害者福祉制度の理念について （障害の概念、ICF(国際生活機能分類)　） ・障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 (障害福祉サービスの概要、給付の種類、手続きの流れ等) ・生活保護、成年後見制度、日常生活自立支援事業、虐待防止制度、消費者保護、個人情報保護に関する各種制度・事業につき学ぶ。
合計	9	

５　介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護における コミュニケーション	3 時間	《講義内容》 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的や役割 （相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮） ・傾聴・共感等様々なコミュニケーションについて ・利用者に対する共感、利用者・家族との信頼関係の形成等の重要性、家族の心理的理解について学ぶ。 ・言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ・視覚障害、聴覚障害（難聴）、失語症（構音障害を含む）、知的障害、精神障害、認知症各種障害等を理解し、それぞれの障害に応じたコミュニケーションの技術の習得。 《演習の内容》 ・傾聴、共感の実践的演習を行う
②介護におけるチームの コミュニケーション	3 時間	《講義内容》 ・記録における情報の共有化 （介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録・介護に関する記録のしかた） ・フェイスシート、アセスメントシート、個別援助計画書を、現実に各施設で使用しているシートを用い、その機能、実際の使い方を学ぶ。 ・現実に使用しているヒヤリハット・事故報告に基づき、ヒヤリハットの目的、実際の使い方を学ぶ。 ・５Ｗ１Ｈを押さえた記入方法の基本、留意点を学ぶ。 ・報連相の重要性、意義、目的、それぞれの留意点について学ぶ。 ・講師による PT、トレーナー、介護スタッフ参加の合同ケアカンファレンスの実例説明。 ・講師によるサービス担当者会議の実例説明。 《演習の内容》 ・事例によるサービス担当者会議の実践と報告書の作成
合計	6	

6　老化の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	《講義の内容》 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴（防衛反応、反射がとのように変化するか学ぶ）。 ・身体的側面だけではなく喪失体験など、こころの変化も理解する。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を学ぶ。 ・咀嚼機能の低下、筋肉、骨、関節の変化や体温維持機能の変化について学ぶ ・精神的機能の変化と日常生活への影響について学ぶ
②高齢者と健康	3 時間	《講義の内容》 ・高齢者の疾病と生活上の留意点（骨折、筋力の低下と動き、姿勢の変化、関節痛を学ぶ）。 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点（循環器障害や循環器障害の危険因子と対策）老年期のうつ病症状、誤嚥性肺炎、感染症を学ぶ ・老化によるこころとからだの変化を正しく観察することにより症状の小さな変化に気付く視点を養う。 《演習の内容》 ・高齢者の小さな変化にどのように気がつくことができるか、グループディスカッションを行う。
合計	6	

7　認知症の理解(6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	《講義の内容》 ・認知症ケアの理念。 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	《講義の内容》 ・認知症の定義 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・認知症の定義（物忘れと記憶障害の違い、老人性うつとの違い） ・健康管理・薬物療法
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	《講義の内容》 ・認知症の人の生活障害、心理行動の特徴 ・認知症の中核症状と行動・心理症状を学ぶ。 ・認知症ケアの留意点を総合的に学ぶ。 ・コミュニケーションの重要性、ご利用者の洞察、具体的なケアを学ぶ。 ・認知症利用者への対応（本人の気持ちの推察、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる） ・認知症の進行に合わせたケア 《演習の内容》 ・認知症の人に対して不適切なケアとはどのようなことか、そして、その結果どうなるかグループワーク
④家族への支援	1 時間	《講義の内容》 ・認知症の受容過程での援助方法 家族が事実を受容できるような環境作りの重要性を考える。正しい認知症の知識を学ぶ。 ・介護負担の軽減 認知症患者の家族介護者も支援対象である、レスパイトケアの重要性を学ぶ。
合計	6	

８　障害の理解(3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	《講義の内容》 ・障害の概念とＩＣＦ（ＩＣＦの考え方） ・障害福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、 生活障害、心理・行動の 特徴、かかわり支援等の 基礎的知識	1 時間	《講義の内容》 ・身体障害 視覚障害、聴覚、平衡感覚、音声、言語、咀嚼障害、肢体不自由、内部障害について学ぶ。 ・知的障害 療育手帳、障害の程度区分について学ぶ。 ・精神障害 統合失調症、感情障害、依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害、学習障害、注意欠損多動障害などの発達障害について学ぶ。 ・その他の心身の機能障害について学ぶ。
③家族の心理、かかわり 支援の理解	1 時間	《講義の内容》 ・障害者の家族への支援の重要性について学ぶ。 ・障害者の理解、受容支援を学ぶ ・介護負担の軽減を学ぶ。 《演習の内容》 高齢者介護との違いをグループで考える
合計	3	

9　こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習　①～③	①　介護の基本的な考え方	3 時間	《講義の内容》 ・理論に基づく介護 （ＩＣＦ視点に基づく生活支援、我流介護の排除）。 ・法的根拠に基づく介護 《演習の内容》 ・ＩＣＦの視点に立って物事を分類してみる
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	《講義の内容》 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や、障害を受け入れる適応行動と阻害要因。 ・心の持ち方が行動に与える意影響 ・体の状態が心に与える影響 《演習の内容》 介護者が疲弊しているときに予想されることをグループディスカッションで話し合う
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	《講義の内容》 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・ボディメカニクスとは ・中枢神経と体制神経に関する基礎知識 ・自律神経を内部器官に関する基礎知識 ・心と体を一体的にとらえる ・利用者の様子の普段との違いに気づく 《演習の内容》 ボディメカニクスの原理を体験する

生活支援技術の講義・演習　④～⑫	④生活と家事	4時間	《講義の内容》 ・家事と生活の理解（家事援助に関する基礎的理解 ・生活歴、自立支援、予防的な対応、 ・主体性、能動性を引き出す。 ・多様な生活習慣や価値観を受け入れる 《演習の内容》 介護職員が行う家事援助とはどのようなものか 自立支援の考えに基づいた家事援助につてグループワークを行う
	⑤快適な居住環境整備と介護	6時間	《講義の内容》 ・家庭内に多い事故を理解し、住居内の環境整備の大切さを学ぶ。 ・高齢者、障害者特有の居住環境整備福祉用具に関する留意点と支援方法 ・バリアフリーについて学ぶ 居室や寝室、トイレ・浴室、玄関・廊下、階段、戸外等、場所ごとにどのような点に留意すべきかを学ぶ。 ・住宅改修について学ぶ。 入浴や住居内の移動の際に有益な福祉用具の選択や手すり等の設置について学ぶ。 《演習の内容》 一般住宅内の危険な場所について話し合う 快適な住空間に必要なものは何かグループワーク
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	《講義の内容》 ・身じたくの意義を見直し、①尊厳を支え、②自立を支援し、③ＱＯＬの向上をめざし、④社会参加を促進する、という介護場面における身じたくの基本を学ぶ。 ・身体状況にあわせた衣服の選択について、着脱の基本について学ぶ。 ・洗面の意義、効果について学ぶ。 ・整容行動について学ぶ。 《演習の内容》 ・「脱健着患」の原則、講義で学んだ内容を実践して実際に着脱介護を体験・学習する。 ２人１組になり着脱を行う。

	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7 時間	《講義の内容》 ・移動の意義を学ぶとともに、歩行障害や転倒リスクの増加、活動意欲の低下等、移動を困難にする要因を分析する。 ・尊厳を支え、自立を支援する介護姿勢の重要性を学ぶ。 ・種々の廃用症候群と防止のために必要な介護について学ぶ。 ・安全な移動・移乗介護を実践するための基礎知識として、まひの障害部位、関節可動域、その他の留意点について学ぶ。 ・ボディメカニクスの基本原理を理解する。 ・様々な移乗介助の具体的な方法を学ぶ（車いすへの移乗、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・ポータブルトイレ間の移乗） ・利用者・介護者にとって負担の少ない体位交換、褥瘡を予防するための具体的な方法について学ぶ。 ・車いすの基本構造、使い方、状況別留意点を学ぶ。 ・杖なしの歩行、杖による歩行、歩行器による歩行の介助方法を学ぶ。 ・外出による社会参加の意義を理解し、外出時の留意点を学ぶ。 《演習の内容》 ・ベッド・車イス間の移乗介助を実践する。 ・車イスでの移動介助を実践する。（段差、坂道） ・杖による歩行で、段差や階段の上り下りなど、状況別介助を実践する。 ・視覚障害者の歩行の介助を学ぶ。 ・体位変換を学ぶ 用意するもの 車イス　杖　アイマスク

	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	《講義の内容》 ・食事に関する基礎知識について学ぶ。 ・食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用について学ぶ。 ・食事形態とからだのしくみついて学ぶ。 ・食事の意義と意味。高齢者に対する配慮。 ・生理的刺激により生じる食欲と感覚的刺激により生じる食欲、それぞれのしくみについて学ぶ。 ・口腔から食道までの身体の構造と名称、及び摂食・嚥下の5分類、咀嚼・嚥下についてのメカニズムについて学ぶ。 ・口腔ケアを学ぶ。 ・5大栄養素とそれぞれの働きについて知識を習得する。 ・食材による調理性、献立の立て方、食品の保存・安全性、衛生管理、調理の操作等調理の基礎について学ぶ。 ・高齢者の身体機能（消化器系の変化、感覚器系の変化、咀嚼・嚥下機能の低下について学ぶ。 《演習の内容》 ・2人1組になり食事介助を行う。 市販の介護食により嚥下困難食を実際に食べてみる とろみ剤を使い、とろみの付け方の実技を行う ・食後に口腔ケアを行う 用意する物 エプロン・タオル・ティッシュ・介護食・スプーン 歯ブラシ　コップ　ガーゼ　ガーグルベース

	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	《講義の内容》 ・入浴・清潔を保つことの意義と目的を、身体的意義、心理的意義、社会的意義、入浴がからだに及ぼす影響について学ぶ。 ・羞恥心や遠慮、病気・障害・加齢による機能低下、利用者の尊厳を尊重した配慮について学ぶ。 ・入浴・整容を補助する福祉用具の種類と使用方法をについて学ぶ。 ・入浴前（身体や精神の状態、バイタルサイン、ＡＤＬの状態、入浴環境、本人の意向等）、入浴中（動作、環境、全身の状況等）、入浴後（疲労度や体調の変化）について学ぶ。 ・手浴、足浴、陰部洗浄、洗髪の各部分浴別に具体的な介助方法を学ぶ。 ・全身清拭の一連の流れについて学ぶ。 《演習の内容》 少人数または、2人1組になり実技演習を行う ・お風呂場で全身浴の方法を行う。 ・部分浴の具体的方法を行う。 ・ベッド上での洗髪方法を行う。 ・全身清拭方法を行う。 用意するもの たらい・タオル・リンスインシャンプー・ブラシ・ドライヤー　ビニールシート　温度計　バケツ　グローブ ガーゼ

	⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	《講義の内容》 ・排泄とは何かを正しく理解する。 ・排泄の身体的意味、心理的意味、社会的意味を理解する。 ・排泄行為を受けなければならなくなった利用者のプライド・尊厳がどれだけダメージを受け、意欲の低下を招くかを理解し、介護場面における配慮を学ぶ。排泄介護は利用者の尊厳の保持と自立支援であることを学ぶ。 ・ＱＯＬの低下、意欲の低下、ＡＤＬの低下、介護量の増大等、おむつ着用のマイナス点を検証し、安易なおむつ使用はすべきではないことを正しく理解する。 ・排泄環境の整備、排泄用具の活用方法、について学習する。 ・爽快な排泄を阻害するこころの要因、からだの要因を知り、それに対する支援方法を学ぶ。 ・腹圧性尿失禁、切迫性尿失禁、溢流性尿失禁、機能性尿失禁、反射性尿失禁等、様々な排尿障害を知る。 ・規則的な生活・食生活、繊維質の食べ物の摂取、水分の摂取量保持、運動、習慣等、便秘の予防方法を学ぶ。 ・トイレ・ポータブルトイレ介助、おむつ交換について学ぶ。 《演習の内容》 ・ポータブルトイレでの介助方法を実践で学ぶ。 ・おむつ交換方法を実践で学ぶ。 用意するもの おむつ・パット・陰部洗浄用ボトル・タオル・ビニールシート・ポータブルトイレ・新聞紙　グローブ

	⑪睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	《講義の内容》 ・睡眠についての関する基礎知識を学ぶ。 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法につき、理解を深める。 ・快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について学ぶ。 ・安眠のための介護の工夫を学ぶ。 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）について学ぶ。 ・安楽な姿勢、褥瘡予防について学ぶ。 《演習の内容》 ・各自ベッドメーキングの具体的な方法を実践で学ぶ。 用意するもの シーツ・枕カバー
	⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	3時間	《講義の内容》 ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみについて学ぶ。 ・生から死への過程について学ぶ。 ・「死」に向き合うこころを理解する。 ・苦痛の少ない死への支援について学ぶ。 ・終末期ケアの実際について学ぶ。 ・高齢者の自然死（老衰）、癌死の過程を学ぶ。 ・臨終が近づいたときの兆候、対処、介護方法について学ぶ。 ・利用者の意向に基づいた看取りの重要性について学ぶ。 ・本人、家族の意向の他に、医師、看護師、介護職員間での情報共有の重要性、連携の重要性について学ぶ。 ・ターミナルケアにおける介護従事者の基本的態度について学ぶ。 《演習の内容》 ・終末期を迎える利用者とその家族への対応方法、介護職員のかかわりかたについてグループでディスカッションする。

生活支援技術演習　⑬～⑭	⑬介護過程の基礎的理解	5時間	《講義の内容》 ・介護の基本的な視点 （残存能力の活用と個別性の高い支援）、及び利用者理解の基本姿勢につき復習する。 ・介護過程の目的・意義・展開について学ぶ。 ・実例に基づき、介護過程とチームアプローチの重要性について理解する。 《演習の内容》 個別援助の介助計画を作成し、評価する。
	⑭総合生活支援技術演習	5時間	《演習の内容》 ・本科目で用いる事例について正しく内容を理解する。事例は「要支援２程度」、「認知症」、「片麻痺」、「座位保持不可」のうち、２事例を提示する。 ・事例に基づき、こころとからだの力が発揮できない要因の分析を行う。 ・要因分析に基づいた適切な支援技術の検討を行う。 ・実際に支援技術に基づいた演習を行う。 ・演習後、支援技術の課題について確認し合う。 ※内容については添付の「総合生活支援技術演習計画書」参照。
合計		75	

１０　振り返り（4 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3 時間	《講義の内容》 ・研修を通じて学んだことや、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点を振り返る。 《演習の内容》 ・以下のテーマについてレポートを作成する。 ①初任者研修を通して学んだこと ②介護職員として終業後も継続して学ぶべきこと ・身に付けるべき知識 ・身に付けるべき技術 ・その他 ③根拠に基づく介護についての要点 ・利用者の自立を支援する介護のあり方について ・利用者の状態像に応じた介護と介護過程について ・身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性について ・チームアプローチの重要性について ・利用者本人、及び家族に対する対応（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等）についてロールプレイを行い、相互に評価する。
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1 時間	《講義の内容》 ・介護職として継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について ・ＯＪＴ・Ｏｆｆ－ＪＴの実例 《演習の内容》 ・初任者研修修了後も継続して学ぶべきことについて意見、及び情報の交換を行う。
合計	4	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。
※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。